

地鶏に与える飼料の10%を米ぬかに代替できる

福島県農業総合センター 畜産研究所養鶏分場

部門名 畜産 - 鶏 - 資源利用、畜産経営、畜産栄養
担当者 泉田和子・齋藤美緒・根本光輔・籠橋太史

新技術の解説

1 要旨

食品が多様化し、物価が高騰する情勢の中で、特色ある地鶏の生産や、厳しい情勢に耐えうる経営安定技術を示すことが求められている。そこで、会津地鶏に給与する飼料の一部を地域資源である米ぬかを活用して代替し、より地元に着した地鶏の生産方法を検討したところ、10%の代替率であれば、通常飼料で育てた場合と比べて成長や肉重量は遜色なく、飼料要求率や生産指数は優れている結果を得た。

- (1) 28日齢以降に給与するブロイラー用仕上げ飼料の10%、30%を米ぬかに代替させても、いずれの飼料も、3週齢以降のブロイラーの養分要求量(CP16.0%、ME3,100kcal)を満たしている。
- (2) 28日齢以降米ぬかを代替させた飼料で飼育開始したところ、35日齢から出荷までの全期間において、30%代替させた場合が他と比べて有意に小さかったが、10%代替させた場合は通常飼料で飼育したものと差が無かった(図1)。
- (3) 各部位の肉重量は、10%代替した場合であれば通常飼料で育てた場合と有意な差が無かった(図2)。
- (4) 飼料要求率、生産指数は10%代替した場合の方が通常飼料で育てた場合よりも優れる(表1)。

2 期待される効果

- (1) 地域資源の有効活用ができるとともに、地鶏飼育において飼料自給率を向上させることができる。
- (2) 米ぬかは、配合飼料よりも安価で調達できることから、生産コストの低減を図ることができる。
- (3) 地域資源活用に伴い、生産物への付加価値向上が期待できる。

3 適用範囲

県内地鶏生産者

4 普及上の留意点

- (1) 米ぬかの酸化や変質を防ぐため、なるべく鮮度の高い米ぬかを調達し、高温多湿を避けて保存する。
- (2) 購入飼料に米ぬかを混合する際は、混合むらが生じないように配慮する。

具体的データ等

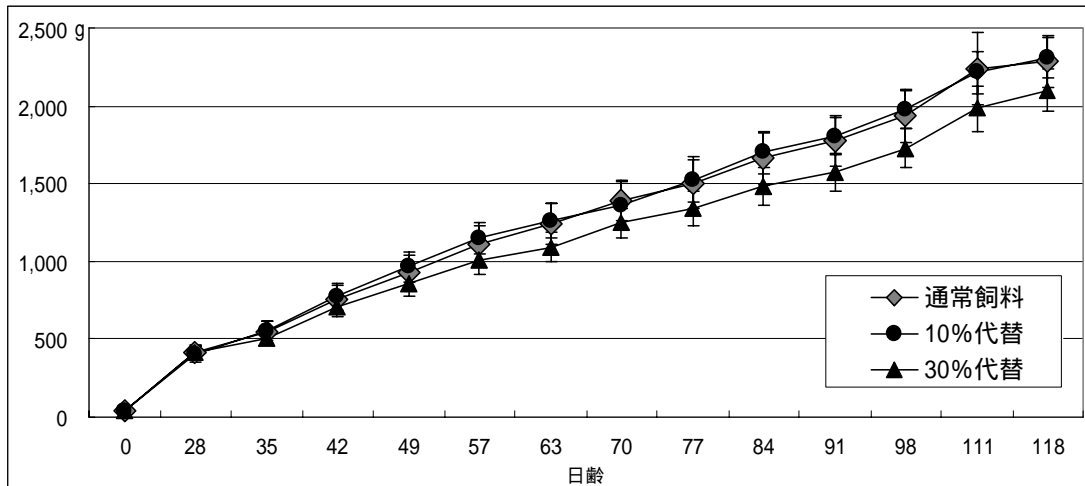


図1 会津地鶏雌に給与した場合の生体重の推移

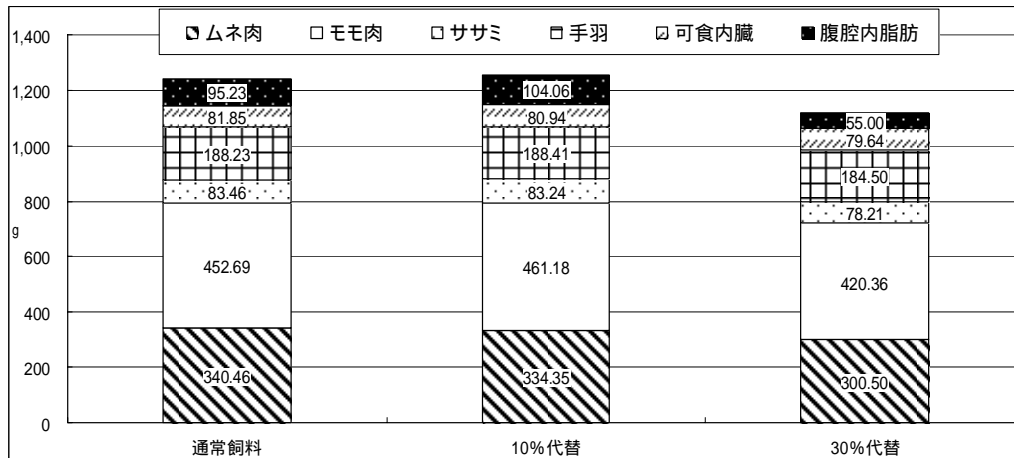


図2 会津地鶏雌の各部位肉重量 (g)

表1 会津地鶏雌の118日齢出荷における成績

	通常飼料	10%代替	30%代替
育成率 (%)	100.0	100.0	100.0
生体重 (kg)	2.29	2.31	2.10
飼料要求率	3.87	3.58	3.59
生産指数	49.4	54.7	49.6
ムネ+モモ+ササミ (g)	876.6	878.8	799.1
手羽 (g)	188.2	188.4	184.5
可食内臓 (g)	81.8	80.9	79.6

$$\text{生産指数} = (\text{出荷体重} \times \text{出荷率}) / (\text{飼料要求率} \times \text{飼養日数})$$

その他

1 執筆者

泉田和子

2 主な参考文献・資料

- (1) 福島県養鶏試験場研究報告第31号
- (2) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)